

日本熱物性学会 第3回役員会報告

1. 日 時：平成19年9月22日(土) 14:00~17:00
2. 会 場：CIC リエゾンコーナー501 (東京・田町)
3. 主な議題：

1) **前回議事録確認** 高橋事務局担当より配布資料の確認と説明があった。資料は理事会報告であり7月下旬メール配信したもので、本会の承認事項ではないが配布したとの説明があった。

2) **第28回日本熱物性シンポジウム準備状況** 杉山実行委員長の代理で山田雅彦理事から説明があった。現在103件の講演申込があり、全講演論文原稿がほぼ届いているとのこと。学生ベストプレゼンテーション賞(BPA: Best Presentation Award in the 28th Japan Symposium on Thermophysical Properties)の英語呼称を統一すべきであるとの指摘があった。また、最終会告の「ホームページでの発表と新規性の喪失」の項の記述は書き換えて、本学会は特許法30条の指定団体(指定:平成12年)であり、2006年からは特許申請者が自ら例外規定適用の申告書を作成できるようになっているので、そのことを配慮した記述をすることになった。論文公開が参加登録者限定とは言え、シンポ会期前の10月10日にはHPで公開されることをHPやプログラム、論文集など各所に明記しておくことが必要であるとの指摘があった。講演論文の投稿者には実行委員会から、その旨を周知させるメールを配信することにした。

3) 総会に関する事項

名誉員内規改正について 内規の改正が前回理事会で承認されており、1回の推挙で3名までという制限条項を撤廃したことが藤井表彰委員長から説明された。

平成19年名誉員の推挙について 改正された内規に基づき推薦委員会は4名を推挙した。内諾の返答があったのは3名であり、その方がたの略歴を資料として示すとの説明が藤井表彰委員長からあり、3名を推挙することが異議無く承認された。

平成19年学会賞候補者について 藤井表彰委員長から、平成19年の功労賞には選考委員会から渋川祥子(聖徳大学)教授が推薦されたこと、貢献賞は選考委員会から馬場哲也氏が推薦されたこと、論文賞等選考委員会からは内規に従い厳正に選考した結果、資料のとおり、論文賞候補1名、奨励賞候補3名を推薦することが説明され、異議無く承認された。

次期役員候補者について 牧野会長から、8月末までに集計した候補者一覧について説明があり、各地区評議員候補については地区代表から推薦があった候補者を選んだ。監事は大学・研究所等所属の方と企業の方を1名ずつ選任することが慣例なので、推薦があった3名から大学関係者を1名選ぶことにした。その結果、監事候

補者には東北大学の佐藤 譲教授が選ばれた。事務局担当副会長候補者には慶應義塾大学の長坂教授が選ばれた。会長候補者には副会長経験者の中から、大西晃氏（JAXA）が、無任所副会長候補者には馬場哲也氏（産総研）が選ばれ、全ての次期役員候補者が決定した。

倫理規定(案)について 倫理規定 WG が策定した倫理規定案が紹介され、牧野会長が全文を読み上げた。若干の字句の修正の後、提案どおり承認された。倫理委員会の設立条項を会則へ追加することは考えていないので、会則はそのままとし、本規定は役員会決議として 10 月の総会議案書へ掲げ、公表したいと高橋事務局担当から補足説明があった。その後で HP と会誌にも掲載することが了承された。

総会議案書 第 28 期総会議案書について高橋事務局担当から説明があった。会計年度が 1 月から 12 月なので、今年度の活動計画を 10 月になって承認するというのには違和感があり、平成 18 年の決算や平成 19 年予算案を審議事項として諮るのには時期遅れの感があるとの意見もあったが、秋にシンポジウム・総会を開催する以上やむをえないことであり、提案どおり進めることとした。「総会議題」というタイトルは「総会議案書」とすること、倫理規定を次期シンポジウム開催の記述の後に入れることなどの修正をする。

4) 第 29 回日本熱物性シンポジウム準備状況 次期シンポジウムは日本女子大学の目白キャンパスで、渋川教授を実行委員長として、10 月 8・9・10 日に開催されることが前回理事会で了承されており、それを受けて関東地区の大久保評議員がシンポジウム担当委員として説明をされた。実行委員会メンバー表が示され、続いて講演申込期日などが提案され、承認された。今年より 2 週間早まるスケジュールなので、講演申込期限は平成 20 年 6 月 20 日(金)、論文提出期限は 8 月 22 日(金)、参加申込期限は 9 月 12 日(金)と決定した。

5) ATPC2007 事業報告 藤井組織委員長から、無事成功裏に終了できたことへのお礼の言葉が述べられた。資料に基づき次のような事業報告があった。すなわち、論文申込は 193 件あったが、取り消しなどで 170 件ほどになった。組織委員会の論文セレクショングループが国際誌(High Temp. High Press.と Int. J. Thermophysics)へ掲載する論文を推薦した。40 件ほどの論文が各エディターへ推薦されており、現在レビュー中とのこと、合計で 30 数件の論文が採択され special issue が組まれる予定とのこと、3 年後の ATPC 開催は中国で開催と、国際組織委員会が決定していること、日本学術振興会から 350 万円の補助があり、学会からは 20 万円の補助を受けたこと、などが説明された。牧野会長から、藤井委員長と ATPC 実行委員会へ労いの言葉と謝辞が述べられた。なお、実行委員会からの報告や ATPC 参加学生の感想文を 11 月号会誌「熱物性」へ掲載する予定であることが吉田編集委員長から紹介された。

6) 各種委員会・研究会報告

編集委員会 吉田委員長から、会誌への論文投稿をお願いするとの要請があった。現在 3 つの研究分科会が活動しており、そこでの発表内容を解説記事として掲載している。地区の話題を「地区便り」として各評議員から寄稿戴きたいと要請された。電子投稿用に投稿規定とテンプレートを改定して HP へ掲載する準備をしていることが報告された。創立 25 周年記念出版について、山田前編集委員長から報告があり、「さーもふいじしすと」の単行本を札幌シンポジウムまでに作成し販売する予定とのこと、記念募金の 45 万円を充てる他に、予備費等から補填して支出することが可能であること、青葉堂印刷と東京都内の業者から見積を取って検討中であること、会誌と同様の表紙デザインで制作し、B5 版、頒布価格 1500 円とすること、などが提案された。記念募金の寄付者や執筆者への贈呈分もあるので予算など条件が合えば 500 冊作ることにした。

熱物性値サービス委員会 馬場委員長から、「新編 熱物性ハンドブック」の出版は最終チェック段階にあり、数冊の見本を札幌シンポ会場へ展示できる見込みとのこと、DB 委員会から熱物性 DB の構成と利用法の解説をシンポで行う予定であることが紹介された。昨年、長崎大学に専用サーバーを設置して戴き、産総研の閲覧ソフトを登載したこと、シンポ最終日にコンテンツの公開方法を話し合う予定であることなどが報告された。DB の使い方を会誌にも掲載する予定とのこと。記念出版とハンドブックについては、シンポ会場で購入して戴けるように、総会でも PR してはどうかとの意見があり、記念出版については山田前編集委員長に、ハンドブックは馬場委員長に、それぞれ 2~3 分の内容紹介プレゼンをお願いすることにした。

広報委員会 山田雅彦委員長から HP の現状について報告があった。

研究分科会 長坂教授からマイクロ・ナノ研究会が大西前副会長を中心として続けられていること、主として学会外の講師に話題提供をお願いしていること、9 月 28 日に 6 回目を予定しており、その後 2 回ほど開催する予定のこと、研究会最終報告は冊子体にまとめたことなどが述べられた。建物外皮研究会については吉田編集委員長から報告があった。9 月 6 日に 6 回目を開催しており、会員外の方が多数参加していること、最終的には設計に使える物性値を評価し呈示することが目標であること、今年中に 7 回目を予定しているが日にちは未定とのこと、などが述べられた。生活環境懇話会については諸岡副会長から報告があり、関西地区を中心として 2 回開催したこと、異分野の人の集まりから新しいアイデアが生まれるよう期待していること、第 3 回目は 12 月初旬に予定していること、などが述べられた。

- 7) **共催・協賛関係** 高橋事務局担当から、8・9 月に協賛を許諾したのは 1 件だけであるとの報告があった。
- 8) **会員異動** 高橋事務局担当から報告があり、8 月号会誌に掲載された以降は動きが少なく、今年 5 月から 9 月までの異動をまとめたとのこと。
- 9) **その他** ① 今回のシンポジウムで発表する論文の著者は論文中のデータを熱物

性 DB へ収録することについての可否の返答を求められているが、可と返答するにはエクセル形式でのデータに整理し直さなければならないこと、および測定データが DB として有効かどうか判断に迷うこともあって、不可と返答するケースが多いのではないかと危惧される。そこで、熱物性 DB の考え方を明確に示す必要があるとの意見があり、馬場委員長から、DB 委員会でもう少し詰めるとの回答があった。

② 山田前編集委員長より、研究分科会名称の英文が必要なので、来週まで各オーガナイザーにそれをお願いしたいとの要請があった。

③ 昨年、「役員会および理事会報告」の欄を HP に設けて、役員会の会議録を公開している。第 3 回理事会は役員会に代わるという位置づけであるが、その会ではシンポジウムのプログラムが検討出来るまでに至らず、重要案件が少なかったこともあって、役員会メンバーへ第 3 回理事会報告をメール配信しただけで、HP へは掲載していない。今後も HP 掲載は役員会報告のみにして、HP には「役員会報告」の名称にしてはどうかとの提案があり、特に問題なく了承された。